

プレスリリース：国際的な賞「The Heinrich Rohrer Medal」の創設

2013年12月5日

公益社団法人日本表面科学会 会長 尾嶋正治

1. 概要

公益社団法人日本表面科学会（会長 尾嶋正治東京大学教授）は、1986年ノーベル物理学賞の受賞者である故 Heinrich Rohrer（ハインリッヒ・ローラー）博士の偉業を讃え、博士の研究コミュニティへの多大なる貢献に感謝の意を表し、関連する研究分野のさらなる発展を促す目的で、博士の名を冠した国際的な賞「The Heinrich Rohrer Medal」を創設した。本賞は、Rohrer 博士が所属していた IBM チューリッヒ研究所、在日スイス大使館、および Rohrer 夫人のご協力を得て創設された。

本賞は、「Grand Medal」と「Rising Medal」の2種類から成る。Grand Medal は、表面科学に基礎をおいたナノサイエンス・ナノテクノロジー分野において世界的に極めて顕著な業績を残し、もって科学技術の進歩に大きく貢献したと認められる個人に授与される。Rising Medal は、同分野において顕著な成果を挙げ、今後も活躍が期待される 37 才以下の若手研究者に授与される。本 Rising Medal は Rohrer 夫人の強い希望に基づいて創設したものである。

本賞の表彰は、3年に1度、公益社団法人日本表面科学会が主催する「表面科学に関する国際シンポジウム(International Symposium on Surface Science, ISSS)」が開催される年に行われる（2014年、2017年、...）。本賞は、ISSS においてスイス大使から授与され、受賞者は記念講演を行う。この12月から2014年2月にかけて候補者の募集が行われ、第1回受賞式は2014年11月2～6日に松江で開かれる第7回 ISSS で行われる予定である。

（詳細ホームページ <http://www.sssj.org/RohrerMedal/> ）

2. 背景

Rohrer 博士は、来日回数が60回以上にも上り、国内の各種研究組織の諮問委員、評価委員、推進委員などを数多く歴任され、また国内で開催された会議・学会や大学・研究機関等での講演も極めて多数回に上った。さらに個人的に薫陶を受けた日本の若手研究者や学生は数え切れない。博士のフランクなお人柄によって、Rohrer 博士を敬愛する日本人は極めて多く、2013年5月16日に博士が亡くなられた直後から博士の名を冠した賞の創設の声が自然発生的に湧き上がった。Rohrer 博士は日本の自然と文化をこよなく愛され、そのゆえ、他のどの国よりも強い絆を日本との間に築くことになった。

博士は、ノーベル賞受賞対象となった走査（型）プローブ顕微鏡にとどまらず、「Nano is different」という言葉とともに、広くナノサイエンス・ナノテクノロジー研究を推進された。それは正に（公社）日本表面科学会がカバーする研究分野であり、ナノサイエンス・ナノテクノロジーを包括的に網羅する学会は国際的に見ても本会しかなく、それゆえ、国内国外を問わず（公社）日本表面科学会が本賞をホストする最適の学会であるといえる。

しかし、本賞は、日本の研究者だけを対象にするものではなく、本賞を通して国際的なコミュニティの活性化と研究分野のグローバルな発展を目指すものである。そのために、国内だけでな

く海外の学協会や研究機関の協力を得て国際的な視点をもって本賞を運営する。

3. 選考プロセス

- (a) 候補者推薦：日本表面科学会のほか、本賞がカバーする研究分野に関連する国内外の学協会と研究機関・大学の協力を得て候補者推薦を広く呼びかける。ただし、候補者の推薦は、機関推薦ではなく個人推薦に限る。誰もが候補者を推薦することができる。候補者は国籍、性別、年齢、所属機関などを問わない。ただし、**Rising Medal**に限って、表彰年の1月1日現在で37才以下でなければならない。物故者を候補者とすることはできない。自薦はこれを認めない。
- (b) 選考：(公社)日本表面科学会が国内外から依頼した選考委員で構成される本賞選考委員会にて、推薦された候補者の中から厳正に選考して受賞者を決定する。
- (c) 受賞者： **Grand Medal** 受賞者は原則として1名とする。ただし、同一テーマで同等の高い評価を得た候補者が複数名いる場合には複数名の受賞者となる。共同研究者による共同受賞もありうる。**Rising Medal** の受賞者は3名までとする。ただし、それらは共同研究ではなく、それぞれ独立したテーマでの受賞とする。

4. その他

- (a) 本会が主催する「表面科学に関する国際会議 (ISSS)」において受賞者（またはその代表者）による受賞記念講演を行う。
- (b) スイス大使館の協力のもと、スイス大使によって本賞の授与が行われる。スイス大使が ISSS に出席できない場合、スイス大使の代理による ISSS での表彰、あるいは ISSS 直前（または直後）にスイス大使館おける授与、のいずれかを行う。
- (c) メダル、賞状、および賞金が受賞者に授与される。

5. スケジュール

2014年11月のISSS-7で第1回受賞式を行うには以下のスケジュールで準備を進める。

2013年12月：賞創設のプレスリリース

2013年12月9日～2014年2月28日：

候補者の推薦を国内外に募る。

3月～5月：選考

6月：受賞者の内諾

7月：受賞者の発表・プレスリリース

11月2～6日：ISSS-7で受賞式。ISSS-7で記念講演。

(スイス大使がISSS-7開催地の松江まで来られない場合には、スイス代理による表彰かスイス大使館で受賞式を行う。)

6. 問い合わせ先

公益社団法人 日本表面科学会 <http://www.sssi.org/>

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-40-13 本郷コーポレイション 402

事務局長 上村恵美子 TEL:03-3812-0266 FAX : 03-3812-2897 e-mail: shomu@sssji.org

学会長 尾嶋正治 (東京大学大学院工学系研究科教授) oshima@sr.t.u-tokyo.ac.jp

国際担当理事 長谷川修司(東京大学大学院理学系研究科教授) shuji@phys.s.u-tokyo.ac.jp

7. 資料



(1) Heinrich Rohrer 博士

(2) 走査 (型) トンネル顕微鏡 (Scanning Tunneling Microscope, STM)

1982年、ゲルト・ビーニツヒ(G. Binnig)とハインリッヒ・ローラー(H. Rohrer)によって作り出された原子分解能をもつ顕微鏡装置。非常に鋭く尖った探針を観察したい試料物質の表面に近づけ、探針と試料の間に電圧をかけるとトンネル電流が流れる。その電流値から表面の原子レベルの凸凹や電子状態など観測する顕微鏡。レンズを使う従来の電子顕微鏡と全く異なる動作原理ではたらく。1986年のノーベル物理学賞となった。現在ではナノサイエンスの研究に必須の実験装置となっている。

(3) スイス大使館のホームページでの紹介

<http://www.stofficetokyo.ch/heinrich-rohrer-medal/>

(4) 第7回 表面科学に関する国際シンポジウム

The 7th International Symposium on Surface Science, ISSS-7

ホームページ <http://www.sssj.org/iss7/>